

**立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）**  
**共同研究会経費補助**  
**2005年度研究成果報告書**

<b>共同研究会名</b>	グローバル消費文化研究会	
<b>研究テーマ</b>	グローバル化する消費社会の多様性とその社会的要因	
<b>研究代表者</b>	所属・職名	氏名
	社会学部・教授	間々田孝夫 印
<b>幹事</b>	所属・職名	氏名
	社会学部・助手	水原俊博 印
<b>共同研究会 組織</b>	所属大学名等・職名	氏名
	社会学部教授	間々田 孝夫
	社会学部助手	水原 俊博
	社会学研究科博士課程後期 課程 4 年	寺島 拓幸
	同，博士課程後期課程 3 年	中溝 一仁
	同，博士課程後期課程 3 年	重吉 智美
	同，博士課程後期課程 2 年	呉 金海
	同，博士課程前期課程 2 年	橋本 修一
<b>研究期間</b>	2005 年度	
<b>研究経費</b>	2005 年度	
	20 千円	

**研究会の概要及び研究会で行った研究成果の概要**

＜研究会の概要＞ (100～150 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

グローバル消費文化研究会は、世界規模で拡大している消費社会、特に東南、東アジアの後発諸国で実現しつつある消費社会の多様性を指摘し、それらを社会的要因、言い換えると、制度、価値、文化などから調査研究することを目的に組織された。こうした調査研究に備えて、(1) 当面の調査研究対象である日本、韓国、中国、台湾などの消費社会の実情把握、(2) それらの消費社会の調査研究法の検討、(3) 多様だと考えられる各消費社会に影響する社会的要因の検討の3つを行うのが2005年度の課題である。

＜研究成果の概要＞ (300～400 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

- 2005年度は月1回の間隔で会合を開き、本研究会のメンバーが順番で、上述した研究課題について報告し、共同討議した。なお、その会合では、2005年度の研究と密接に関連する前年度までに実施した量的調査、たとえば、「国際化する消費生活調査」(調査代表：間々田孝夫)のデータ分析についても報告され、共同討議された。
- 本研究会のメンバーが中国、台湾、シンガポールに渡航し、現地視察、資料収集を精力的に行った。

以上の研究活動から以下のような研究成果を挙げた。

**【学会報告】**

- 呉金海，2005.5.7，「消費主義と上海の大学生——消費についての日中大学生の比較調査からの分析を通じて」(単独報告) 経済社会学会東部部会，於：立教大学(池袋キャンパス)。
- 寺島拓幸，水原俊博，2005.9.17，「消費による差異化の分析」(共同報告，報告筆頭：寺島拓幸) 経済社会学会第41回全国大会，於：同志社大学(今出川キャンパス)。
- 寺島拓幸，2005.10.22，「韓国のイメージとメディア消費」(単独報告) 第78回日本社会学会大会，於：法政大学(多摩キャンパス)。

**【論文】**

- 寺島拓幸・水原俊博，2006，「グローバル化する消費スタイルの現状と問題構成——『2005年度 国際化する消費生活調査』を通して」(共著，執筆筆頭：寺島拓幸)『応用社会学研究』48: 191-203。
- 水原俊博，2006，「シンガポールの消費社会の現在」(単著)『社会学研究科年報』13: 21-9。
- 寺島拓幸・水原俊博，2006，「消費による差異化の実証分析」(共著，執筆筆頭：寺島拓幸)『経済社会学会年報』XXVIII，査読中。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入)

[グローバル化] [消費社会] [多様性]

※ この(様式2)に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。